健康／医療　学ぶ・育てる　シニア　共に生きる　ライフ

メディカルテラス

はしか、風疹 ワクチンの効果は

はしか（麻疹）と風疹を予防するワクチンの定期接種を受けた子どもの割合が低下していると聞きました。山梨県は昨年度、都道府県別で2番目に低かったそうです。はしか、風疹の症状やワクチンの効果などを教えてください。

回答者
げんきキッズクリニック（昭和町）院長
宮本　直彦医師

2回の定期接種、山梨低迷
流行防ぐため集団免疫を

みやもと・なおひこさん　1994年山梨医科大（現山梨大）卒。みつわ台総合病院（千葉市）や加納岩総合病院を経て、2004年にげんきキッズクリニック（昭和町河東中島）を開業した。日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医。千葉県市川市出身。

―はしかと風疹はどのような病気か。

いずれもウイルスが原因の感染症です。特別な治療薬はありません。はしかは感染力が非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100％発症します。高熱や発疹が出て、肺炎を合併して後遺症をもたらす場合もあります。先進国でも千人に1人は亡くなるとされています。空気感染で広がり、手洗いやマスクだけでは防げません。

一方、風疹は飛沫で感染します。症状は軽い場合が多いのですが、妊娠20週ごろまでの女性が感染すると、難聴や白内障、心臓病などの症状が出る「先天性風疹症候群」の子どもが生まれてくる可能性が高くなります。

―予防法は。

ワクチンの予防接種が有効です。ウイルスを弱毒化して作った生ワクチンで、流通しているのは大半がはしかと風疹の混合ワクチンです。接種した人のうち95％程度は免疫を獲得することができるとされています。主な副反応は発熱や発疹、鼻水、せきなどです。定期接種の対象は1歳と、小学校入学前の1年間の計2回となっています。過去に風疹のワクチンの定期接種を受ける機会がなかった男性（1962年4月2日～79年4月1日生まれ）などは、3月末まで無料で抗体検査を受けることができます。

―山梨県内の接種率が低い。

厚生労働省の発表によると、ワクチンの定期接種を受けた子どもの割合は、2023年度は95％に届きませんでした。県内の接種率は、はしか、風疹ともに1回目は91・6％、2回目が87・3％で、いずれも沖縄に次いで2番目に低い数字となりました。

―接種率が低いとどのような影響が出るのか。

免疫を持たない人が増えて、はしかと風疹が山梨で流行しないか心配しています。海外からウイルスが国内に持ち込まれるリスクもあります。集団免疫を維持するためには、95％以上を保つ必要があります。長期間にわたって有効な免疫を確実に付けるためには、2回目の接種も必要です。

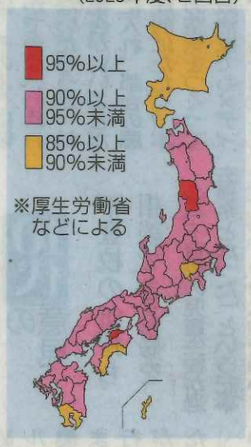
はしかのウイルスは新型コロナやインフルエンザのウイルスよりも強い感染力があります。世界的に流行していて、日本でも東京などで感染者が相次いでいます。また、風疹は症状が軽いイメージがあるかもしれませんが、妊婦に感染が広がると、胎児に悪影響が出る恐れがあります。決して人ごとではありません。

―呼びかけたいことは。

ワクチンの接種を促すため、県や市町村、医療機関などが連携し、対象年齢の保護者に積極的に周知してほしいと思います。保育施設に接種を呼びかけるポスターを掲示したり、保護者に配布したりする方法もあるでしょう。接種しやすい環境を整えていく必要があります。

〈聞き手・小林諒一〉
＝月1回掲載します。

はしかと風疹のワクチン接種状況
（2023年度、2回目）



※厚生労働省などによる

〈医療・健康に関する質問募集〉

病名や具体的な症状、聞きたいポイント、住所、氏名、年齢、職業を明記し、郵便番号400-8515、甲府市北口2の6の10、山梨日日新聞社社会部「メディカルテラス」係まで。ファクスは055(231)3161。ホームページ「さんにちEye」の総合メール窓口内「メディカルテラス」でも受け付けます。http://www.sannichi.co.jp/

紙上匿名。採用されない場合もあります。